

目指す将来像

取組の基本方向

I 地域特
性を生かし
た競争力の
高い魅力あ
る産業が展
開している
地域

《これまでの取組》

- IT・ものづくり産業
 - ・ 自社開発型企業としての参入企業に対する支援の開始
 - ・ IT連携コーディネーターの設置等、IT産業を支える体制整備
- 観光産業・食産業・スポーツツーリズム
 - ・ 「桜と雪の回廊」等、秋田県、県際市町と連携した観光キャンペーンの実施
 - ・ 台湾を中心とした外国人観光客の誘客促進と、外国人おもてなしまとめサイト「いわての10年」の開設等による受入態勢の整備
 - ・ ハーベストレストラン等、若手事業者が進める地域活性化プロジェクトのビジネス化に向けた活動支援
 - ・ 盛岡広域スポーツコミッションへの参画を通じたスポーツツーリズム推進体制の整備
- 農業
 - ・ 農業者の生産性向上のための「カイゼン」の導入
 - ・ 局独自の「銀河のしずく生産者マイスター」認定制度の創設等、生産者の高品質生産に向けた取組の推進
- 林業
 - ・ 伐採から造林までの一貫作業システムの導入や低密度植栽等による低コスト造林の普及
 - ・ アカマツ内装材等を使用したモニター住宅見学会の開催等による地域材の利活用促進
 - ・ しいたけ原木伐採者への増産支援等による原木確保に向けた取組の推進
- 産業人材の育成
 - ・ 就業支援員による高校生への就職支援と定着支援
 - ・ 高等教育機関のキャリア教育等を通じた産業人材に対する地元企業の理解促進
- 交通ネットワーク
 - ・ 交通ネットワークの構築に向けた道路整備の推進

《課題》

- IT・ものづくり産業
 - ・ 受託業務型の企業から自社開発型企業への転換が必要
 - ・ IT産業と他産業(ものづくり産業・農業)との連携による取引拡大が必要
- 観光産業・食産業・スポーツツーリズム
 - ・ 国内外において観光地としての認知度向上が必要
 - ・ 観光産業と食産業・地場産業との連携による地域資源の発掘と魅力づくりが必要
 - ・ 多様な施設を活用したスポーツイベントを核とした誘客促進が必要
- 農業
 - ・ 集落営農法人等への農地の集積による生産体制の強化及び生産性の向上が必要
 - ・ 急速な人口減少に対応するため、担い手の確保や地域外との交流を通じた活性化が必要
- 林業
 - ・ 伐採跡地の再造林率の向上が必要
 - ・ 住宅着工数が減少するため、建材等需要の拡大が必要
 - ・ 原木しいたけ生産量の増産が必要
- 産業人材の育成
 - ・ 少子高齢化により各産業の担い手不足が懸念
 - ・ 管内企業の雇用条件、待遇面の劣後(正社員の求人、長い労働時間)及び認知度不足による人材流出の防止が必要
- 交通ネットワーク
 - ・ 管内北部の幹線道路の整備が必要

1 情報関連産業の成長と産業全体の活性化

- ・ 情報関連産業の幅広い産業分野への参入促進(AI・IoTの活用促進)と自社開発型の企業の育成
- ・ ILC建設に伴う技術を生かした関連産業(ILC加速器産業、医療機器産業等)の参入促進
- ・ 学術研究機関や産業支援機関等の集積を生かした起業・創業の支援

2 観光・食・スポーツを連携させた地域経済の活性化と交流促進

- ・ 国内外からの誘客拡大と沿岸・県際との広域連携による滞在型・回遊型観光の推進
- ・ 産業間の連携と地域の特色を生かした食産業・地場産業の展開
- ・ ラグビーワールドカップ2019釜石TMや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等のレガシー継承によるメガスポーツイベント等のMICEの誘致等の推進

3 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と魅力ある地域資源の活用

- ・ カイゼン、ICT等革新技術や省力化技術の導入による高度な経営体の育成と次世代の担い手の確保
- ・ 環境制御型大型ハウスの整備等による産地の持続的な発展
- ・ 風土・伝統・歴史等の地域資源を活用した都市農村交流の拡大による農村の活性化

4 森林資源の循環利用促進と儲かる林業・木材産業の実践

- ・ 伐採跡地へのカラマツ等の再造林を促進し、森林資源を造成
- ・ アカマツ等豊富な森林資源を活かした木材利用の拡大
- ・ 原木しいたけ生産の担い手育成と輸出拡大等による経営規模の拡大

5 地域産業の特性に応じた産業人材の確保と労働環境の整備

- ・ 高等教育機関や産業支援機関等との連携による、第4次産業革命に対応できる人材の育成に対する支援
- ・ 各産業(農林業・建設業・医療福祉)の担い手の育成・確保に対する支援
- ・ ワーク・ライフ・バランス等の働き方改革の推進による雇用の質の向上と企業の魅力向上

6 産業経済活動を支える交通ネットワークの整備

- ・ 広域的な観光振興や物流の効率化につながる幹線道路やアクセス道路の整備促進

県央広域振興圏が目指す将来像と取組の基本方向[2/2]

目指す将来像

取組の基本方向

Ⅱ 一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域

《これまでの取組》

- 保健医療・福祉
 - ・ 健康づくりチャレンジマッチ事業等、働き盛り世代を中心とした健康づくりの推進
 - ・ 自殺対策として、事業所訪問や出前講座を通じた普及啓発の実施
 - ・ 生活困窮世帯の子供に対する学習支援事業の実施
- 文化・スポーツ
 - ・ スポーツ振興機運醸成イベントの開催による総合型地域スポーツクラブを中心としたスポーツ振興体制の強化
- 環境
 - ・ 環境保全活動の担い手の育成やNPO等との連携による環境保全活動の促進
- コミュニティ・まちづくり
 - ・ 市町村、NPO等と連携し、先進的な活動事例等の情報共有
- 防災
 - ・ 築川ダム建設事業や岩崎川床上浸水対策事業の実施等による防災機能の強化

《課題》

- 保健医療・福祉
 - ・ 生活習慣病による死亡リスクの低減に向けた健康づくりの推進が必要
 - ・ 県平均より高い県央保健所管内の自殺死亡率の低減に向けたところの健康づくりが必要
 - ・ 生活困窮世帯の子供に対する学習支援事業の対象拡大が必要
- 文化・スポーツ
 - ・ 文化・スポーツに対する興味や参画意識を高めるとともに、文化・スポーツ振興体制の強化が必要
- 環境
 - ・ 自然環境への負荷軽減のため、再生可能エネルギーを活用した環境保全対策が必要
- コミュニティ・まちづくり
 - ・ 人口減少・高齢化により従来型のコミュニティ活動が衰退していることから、若者・女性等が活躍する地域づくりが必要
 - ・ 内陸避難者の自立支援、コミュニティ形成支援が必要
 - ・ ILCの建設等を見据え、多文化共生社会の実現が必要
- 防災
 - ・ 気候変動に伴う豪雨等異常気象の増加や火山防災を念頭に置いた災害に強いまちづくりが必要
- 都市環境・生活環境
 - ・ 安心・快適な都市環境の整備が必要

1 健康で安心して生活し続けることができる地域社会の実現

- ・ 企業・地域による「健康づくり宣言」等を通じた機運醸成とところと体の健康づくりの促進に向けた環境整備
- ・ 貧困の連鎖を防止するための子どもの学習支援の推進
- ・ 個人・企業等の団体が多種多様な文化・スポーツ活動に親しむまちづくりの推進

2 豊かな環境が保全され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会の実現

- ・ 風力・地熱等当地域ならではの再生可能エネルギーの活用促進と温泉熱等の廃熱の利用促進

3 歴史と文化を継承しながら新たな地域を創造するコミュニティの形成

- ・ 内陸避難者や県外からのUIターンによる移住者等、新住民の方が安心して生活できるコミュニティの形成支援
- ・ 市町村、NPO等の多様な主体と連携し、地域コミュニティを牽引できる人材の育成
- ・ ILC建設等を見据えた、国際化に向けたまちづくりの推進

4 過去の教訓を踏まえた防災対策の推進

- ・ 築川ダムの建設等による洪水・浸水被害軽減のための防災施設の整備
- ・ 岩手山の火山砂防施設の整備や管内8市町による「岩手山防災計画(仮称)」の策定支援

5 安心・快適な都市環境・生活環境の整備

- ・ 安全安心な生活を支える交通ネットワークの整備(岩手医大移転に伴う救急搬送ルート)の整備
- ・ 老朽化した社会資本(道路・橋梁等)の効率的・計画的な維持管理の推進
- ・ 北東北の拠点にふさわしい高次都市機能を支える基盤の整備
- ・ 遊休資産の有効活用等、官民が連携したまちづくりの推進